

2.4 環境の状態についての実感（満足度）

(1) 身近な生活環境について

身近な生活環境として、大気の状態、水の状態、土壌の状態、騒音・振動の状態、ごみの状態、天候の状態、についての実感（満足度）を聞いたところ、「水の状態」が最も高く、「（まあ）満足している」（「よい状態だと思う」及び「まあよい状態だと思う」の合計）が約 25% となった。

「（少し）不満である」（「あまりよくないと思う」及び「悪い状態だと思う」の合計）は「天候の状態」で最も高く約 50%、次いで「大気の状態」で約 45% であった。

全ての項目で「（まあ）満足している」も「（少し）不満である」が高くなった。

昨年度から今年度の時系列については、全国レベルでは大きな変動はない。地域別で見ると、「（まあ）満足している」の割合が、中部地方ではすべての項目において上がっているが、中国・四国地方ではすべての項目において下がっている。同時に中部地方では「（少し）不満である」の割合がすべての項目において下がっているが、中国・四国地方では上がっている項目と下がっている項目の両方がある。

満足度では項目により地域差がみられるが、特に大気の状態については、九州・沖縄で「（少し）不満である」が 50% を超えた高い割合となった。またいずれの項目でも関東は「（まあ）満足している」の割合が最も低くなった。

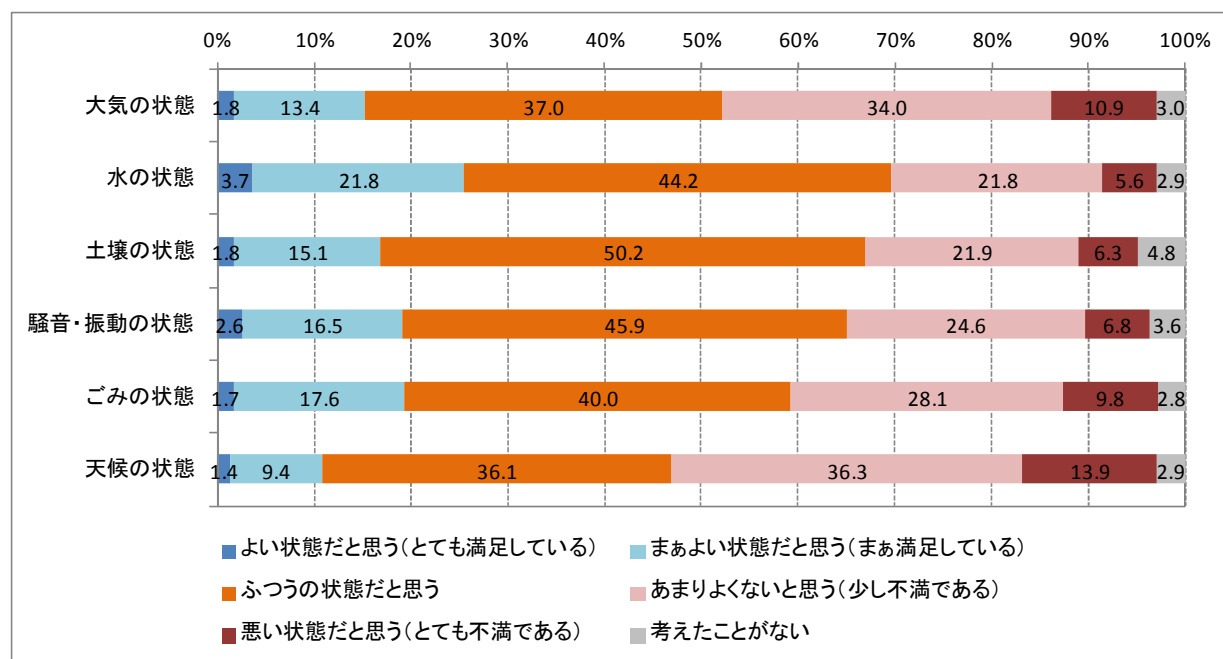


図 20 身近な生活環境の実感（満足度）

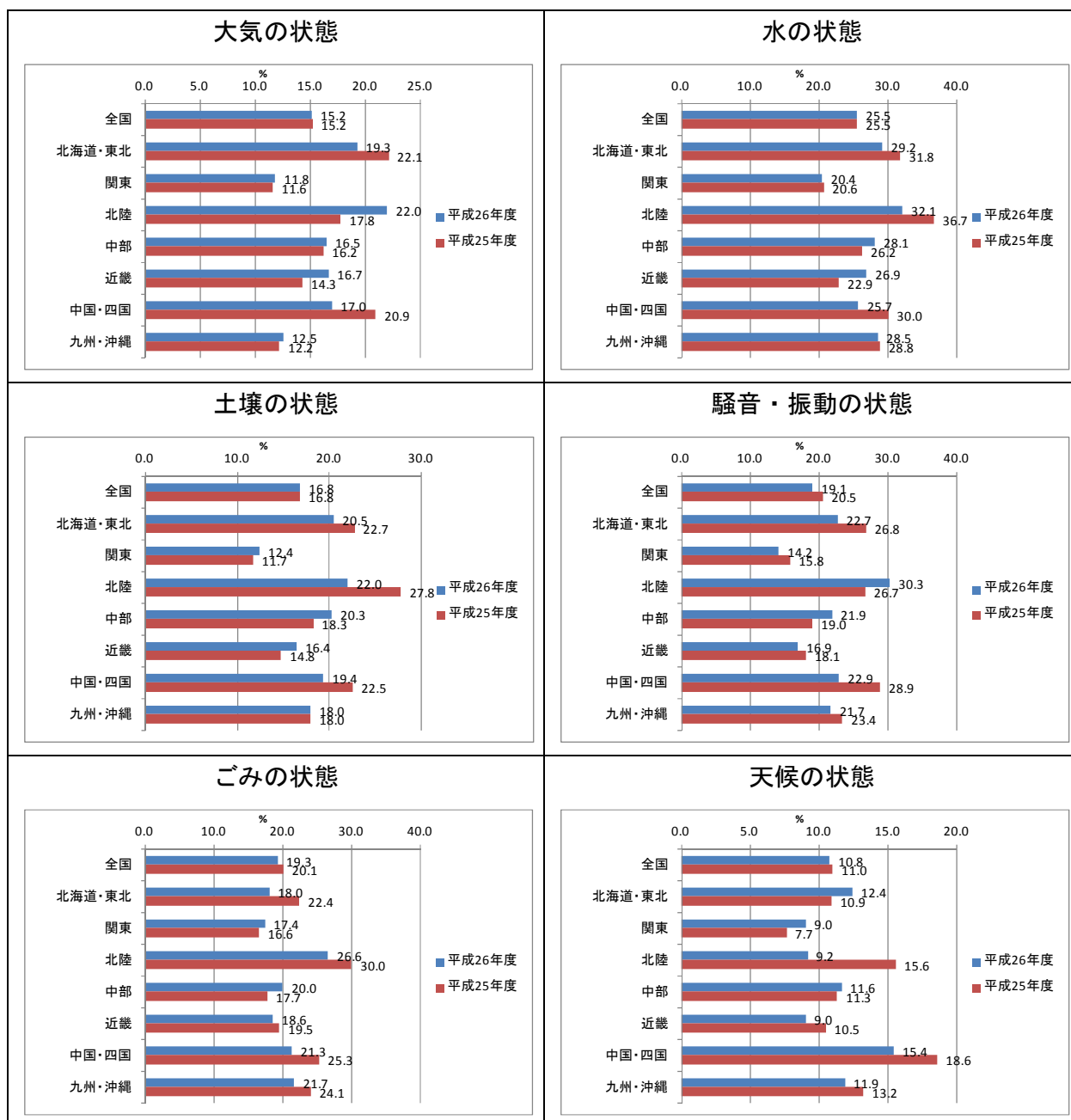


図 21 項目別の満足度（時系列、地域別）

※「よい状態（満足している）」＋「まあよい状態（まあ満足している）」の割合

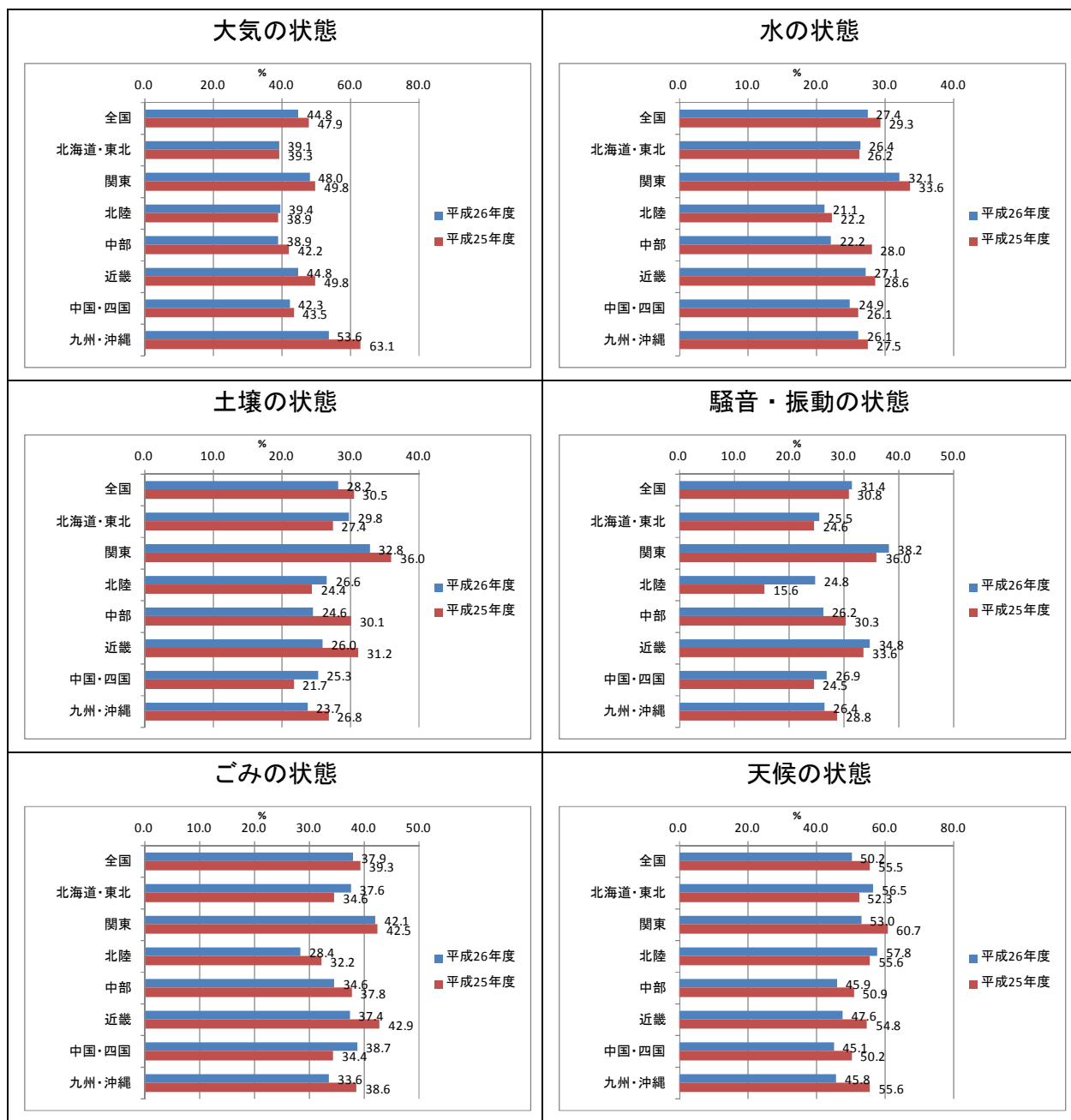


図 22 項目別の不満足度（地域別）

※「悪い状態（不満である）」＋「あまりよくない（少し不満）」の割合

身近な生活環境として、大気の状態、水の状態、土壌の状態、騒音・振動の状態、ごみの状態、天候の状態、についての実感（満足度）を回答した際に、「そう思ったきっかけ」（判断要素）を聞いたところ、「情報ではなく実感」がいずれの項目でも多くなり、5割を超えていた。また、いずれの項目でも「情報ではなく実感」に次いで「ニュース・新聞など、マスメディアの情報から」が多くなった。

「ごみの状態」については、「行政機関の情報から」と回答した人が12.5%と他項目と比べて高くなった。

時系列で見た場合、昨年度から今年度にかけて、すべての「そう思ったきっかけ」（判断要素）について、「情報ではなく実感」は上がり、「ニュース・新聞など、マスメディアの情報から」は下がっている。

また、実感（満足度）を「そう思ったきっかけ」（判断要素）別に集計すると、母数が違うため単純な比較は留意が必要であるが、総じて「情報ではなく実感」あるいは「行政機関の情報」をきっかけにしている人は「(まあ)満足している」という割合が高く、「ニュース・新聞など、マスメディアの情報」をきっかけにしている人は「(少し)不満である」という割合が高くなった。

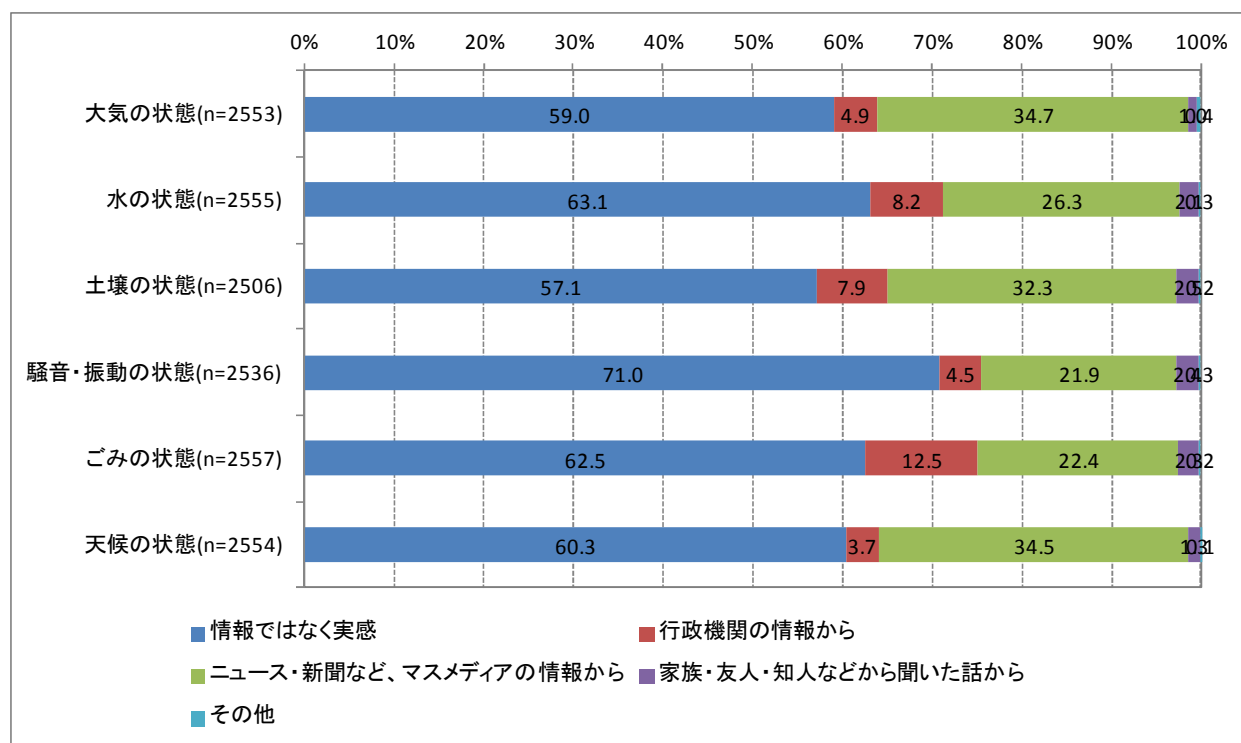


図 23 身近な生活環境の実感のきっかけ

※前問で「考えたことがない」と回答した人を除くため、nが項目により異なる

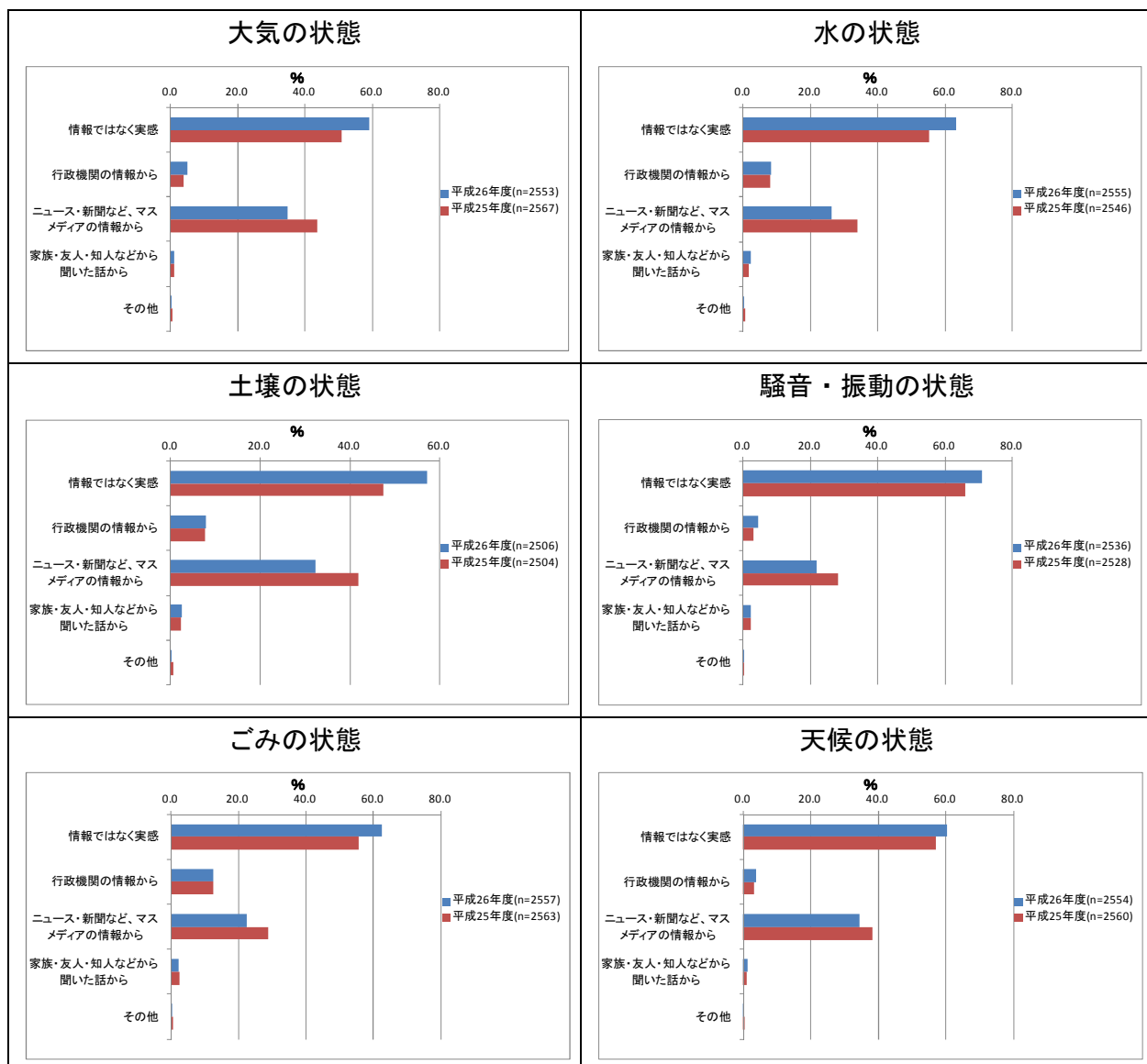


図 24 身近な生活環境の実感のきっかけ（項目別、時系列）

※前問で「考えたことがない」と回答した人を除くため、nが項目により異なる

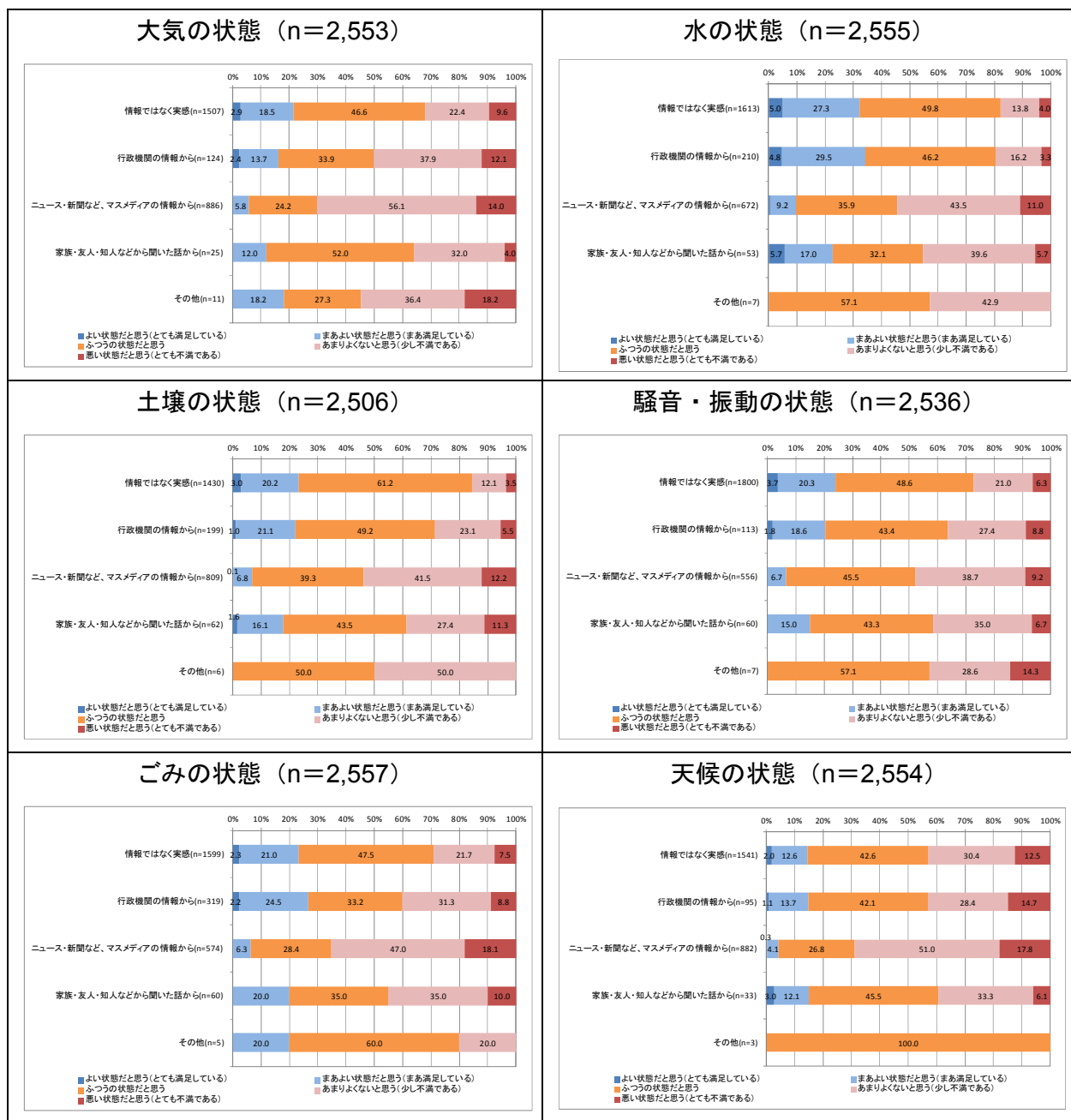


図 25 身近な生活環境の実感のきっかけ（項目別、情報源別）

※前問で「考えたことがない」と回答した人を除くため、nが項目により異なる

「国民が満足だと思う状態」を考えるために、昨年度実施された「平成 25 年度環境にやさしいライフスタイル実態調査」において「満足だと思う状態」について自由回答形式でアンケートを行った際に多く挙げられた回答等から、どれが「よい状態」（満足できる状態）として最初に何を思い浮かべるものを聞いた。

大気の状態については、「大気（空気）が澄んでいる」が 23%で最も多かった。水の状態については、「水道水を安心して飲める」が 54%で最も多かった。土壌の状態については、「農作物が安心して食べられる」が 41%で最も多かった。騒音・振動の状態については、「睡眠時に騒音・振動が気にならない」が 32%で最も多かった。ごみの状態については、「分別がきちんとできているが」が 25%で最も多かった。天候の状態については、「異常気象が起こらない」が 44%で最も多かった。

また、母数が異なるため単純な比較はできない点に留意が必要ではあるが、項目別の「満足度・不満足度」と「思い浮かべるもの」をクロス集計し、満足度・不満足度との関連性をみた。いずれの項目でも選択肢ではないものを思い浮かべたという人（「この中にはない」を回答した人）は不満足度（少し不満＋とても不満）が高く、5 割以上となる。また、項目別では、いくつか「不満足度」が他の選択肢に比べて高くなる項目がみられた。「不満足度」が特に高かったのは、「大気の状態」について「黄砂がない」及び「オゾン層が破壊されない」状態が満足だと思う状態だとした人であり、6 割以上が「不満」となった。また、「天候の状態」について「猛暑がない」状態が満足だと思う状態だとした人も 6 割以上が「不満」となった。一方、「満足度」（とても満足＋まあ満足）が最も高くなったのは、「水の状態」について「水道水がおいしい」状態が満足だと思う状態だとした人であり、約 3 割が「満足」となった。

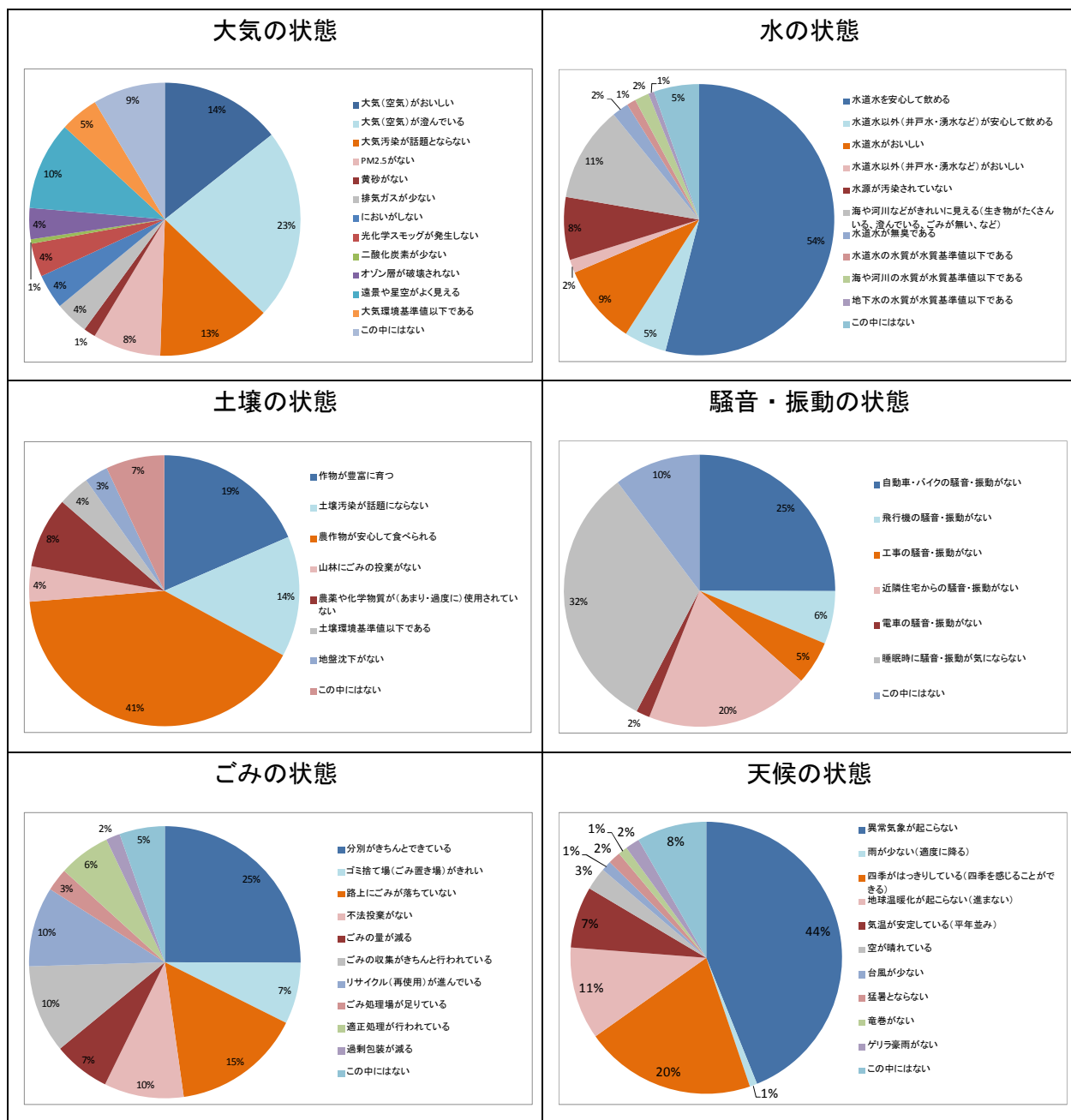


図 26 身近な生活環境に関して「満足できる状態」として思い浮かべる言葉

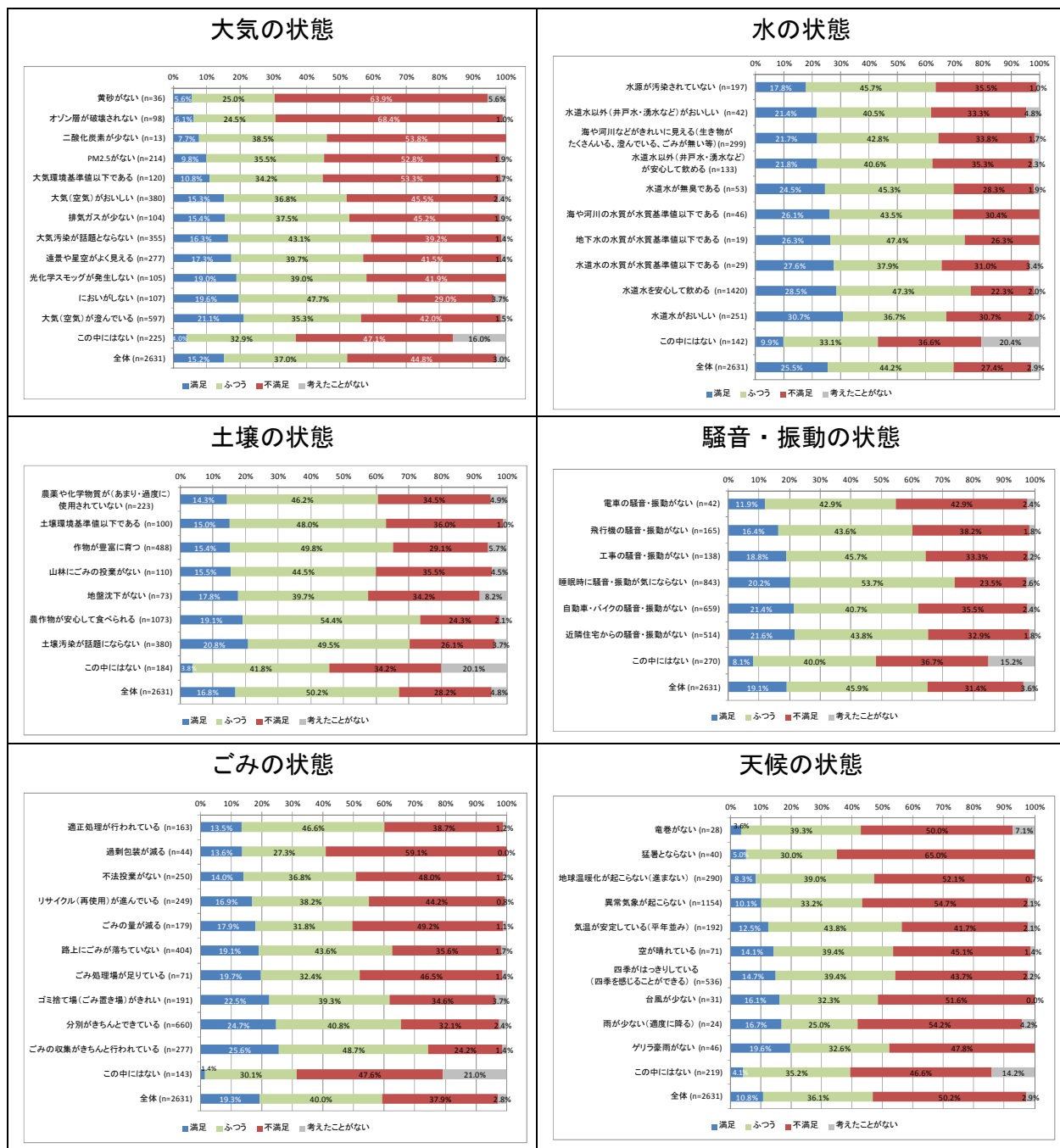


図 27 身近な生活環境に関して「満足できる状態」として思い浮かべる言葉と「満足度」

(2) 身近な自然環境について

身近な自然環境の状態について聞いたところ、家のまわり（徒歩圏内）には公園・緑地は 90% 近くがあると回答したのに対し、森林・里山（山）と水辺は 50% 程度となった。家のまわり（徒歩圏内）の自然環境については、「よい状態だと思う（とても満足している）」もしくは「まあよい状態だと思う（まあ満足している）」の合計が 40% 程度となったが、家のまわり（徒歩圏内）以外については 20% 程度となった。またそのように感じたきっかけについては、「情報ではなく実感」との回答が 75% 以上となった。

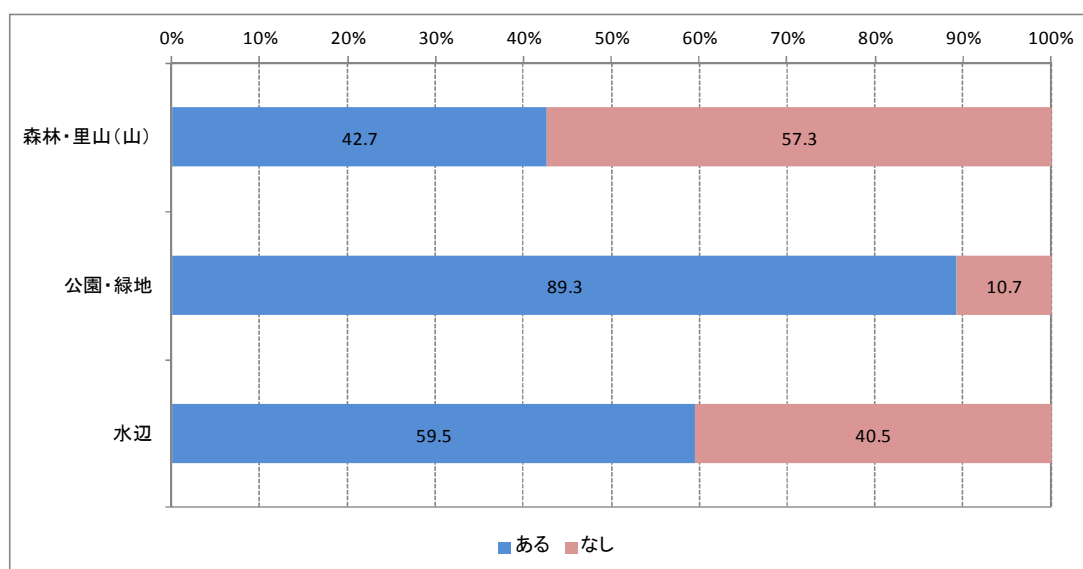


図 28 身近な自然環境の状況について

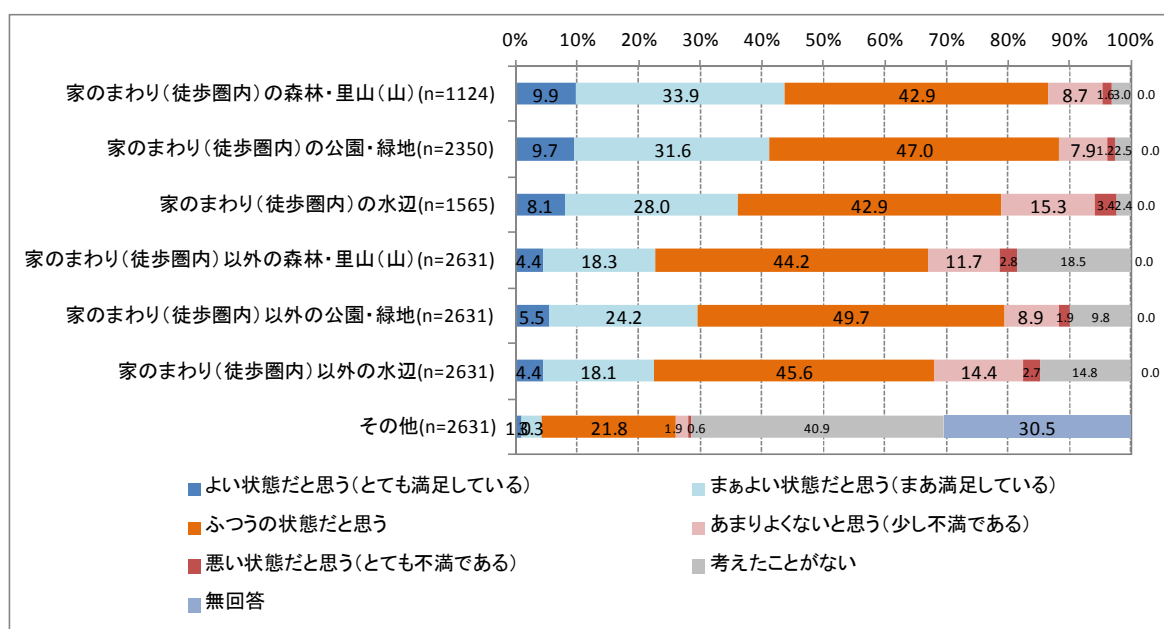


図 29 身近な自然環境の実感

※「家のまわり（徒歩圏内）」については前問で「ある」と回答した人のみを対象としているため、n が項目により異なる

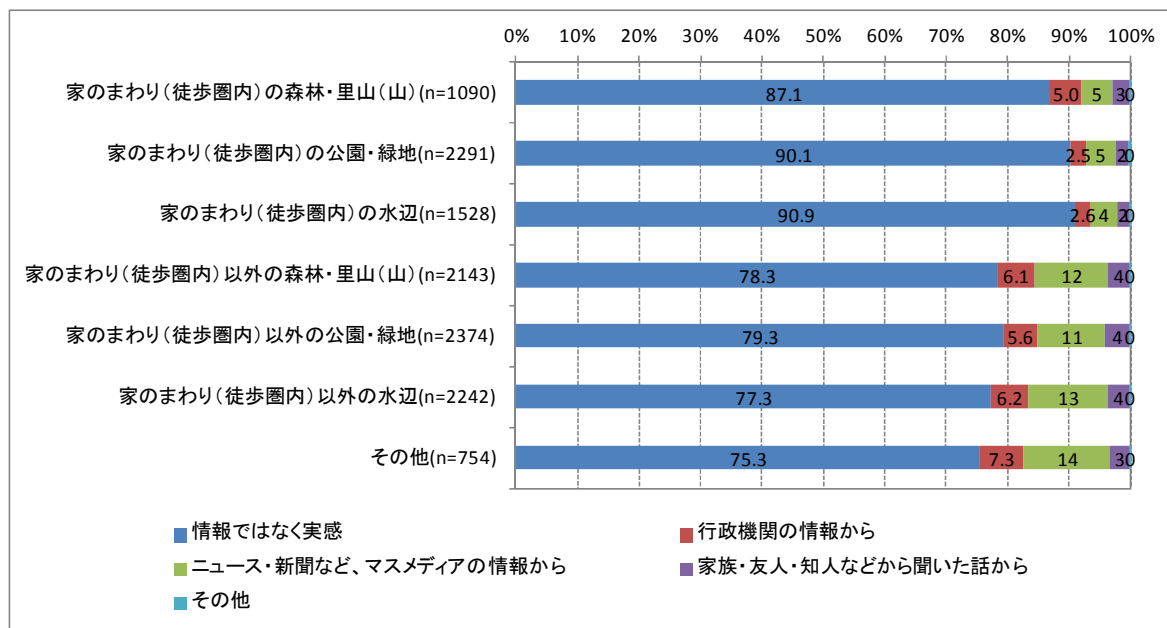


図 30 身近な自然環境の実感のきっかけ

※前問で「考えたことがない」と回答した人を除くため、nが項目により異なる

「国民が満足だと思える状態」を考えるために、昨年度実施された「平成 25 年度環境にやさしいライフスタイル実態調査」において「満足だと思える状態」について自由回答形式でアンケートを行った際に多く挙げられた回答等から、どれが「よい状態」(満足できる状態)として最初に何を思い浮かべるものかを聞いた。そのときに多く挙げられた回答についてどれが「よい状態」(満足できる状態)として思い浮かべるものかを聞いたところ、「海や川、水辺が汚染されていない」が最も高い割合(13%)となった。

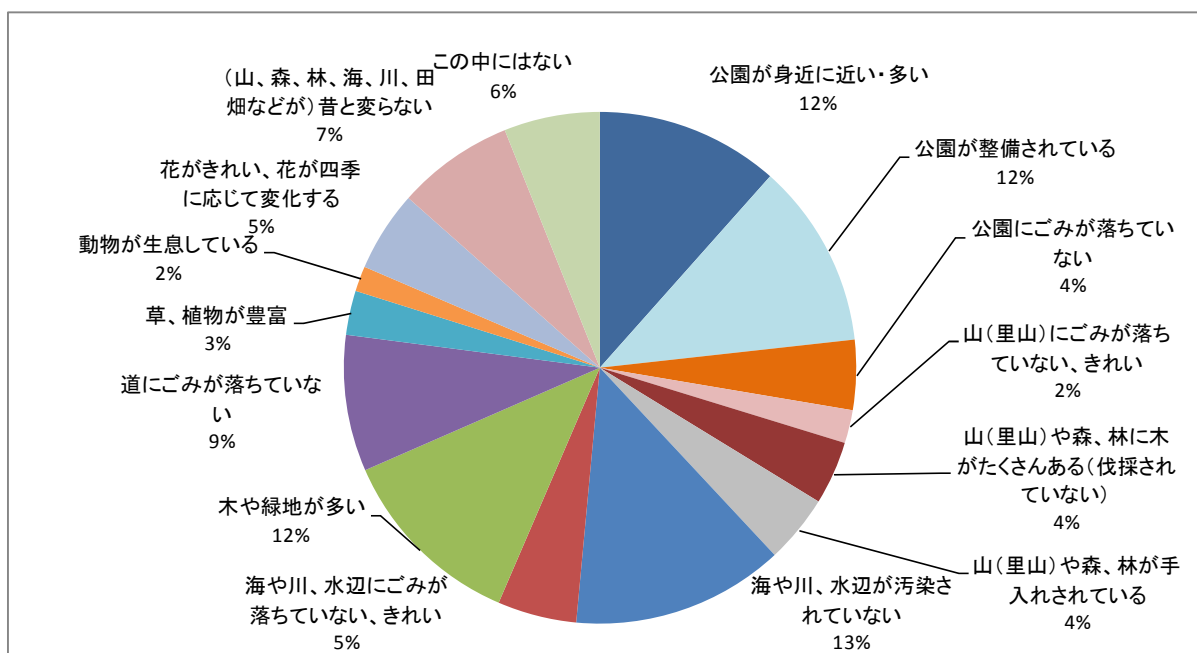


図 31 身近な自然環境に関して「満足できる状態」として思い浮かべる言葉